

科目	構造力学II (Structural Mechanics II)		
担当教員	中西 宏		
対象学年等	都市工学科・4年・後期・必修・2単位 (学修単位II)		
学習・教育目標	工学複合プログラム	A-4-2(100%)	JABEE基準1(1) (d)1,(d)2-a,(d)2-d,(g)
授業の概要と方針	<p>構造力学IIでは主に不静定構造物を解く方法について学ぶ。また2～3年時で学んだ構造力学Iの基礎知識が前提になっている。授業内容としては、不静定構造物の解法、エネルギー原理を中心に学習する。建設構造物の設計のための構造解析に有効な仮想仕事の原理等について理解する。学習方法としては、演習問題を豊富に取り入れて、力学計算の内容を細かく解説する。</p>		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A-4-2】不静定構造物の解析法が理解できる。		不静定構造物の解法計算ができていないか中間試験、レポートで評価する。
2	【A-4-2】ひずみエネルギーによる解析法が理解できる。		ひずみエネルギーによる解析法が理解できるか中間試験、レポートで評価する。
3	【A-4-2】仮想仕事の原理を用いて各種構造物の変形を求めることができる。		仮想仕事の原理を用いて各種構造物の変形を求めることができるか定期試験、レポート、小テストで評価する。
4	【A-4-2】カステリアーノの定理により不静定構造物が解法できる。		カステリアーノの定理により不静定構造物が解法できるか定期試験、レポート、小テストで評価する。
5	【A-4-2】相反定理、ミューラープレスラウの定理とその応用が理解できる。		相反定理、ミューラープレスラウの定理とその応用が理解できるか定期試験、レポート、小テストで評価する。
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験70%、レポート20%、小テスト10%として評価する。100点満点とし60点以上を合格とする。試験成績は中間試験、定期試験の平均点とする。		
テキスト	「構造力学[下]」崎元達郎 著 (森北出版)		
参考書	「構造力学(上)」, 崎元達郎 (森北出版) 「構造力学II」, 嵯峨晃・武田八郎・原隆・勇秀憲 著 (コロナ社) 「構造力学」, 依田照彦ほか著 (彰国社)		
関連科目	構造力学I		
履修上の注意事項			

